

シニア情報生活アドバイザー活動研究会

本事業は、平成22年度自転車等機械工業補振興助事業により実施した事業です。

1. 事業概要及び目的

我が国は世界でも例を見ない程のスピードで高齢化が進んでおり、今後も高齢化率はますます高まっていくと予測されている。当協会は、経済産業省が提唱してきた「メロウ・ソサエティ構想」実現に向けて「高齢者自立型・参加型情報化社会」の構築を目指し、当協会の推進する「シニア情報生活アドバイザー養成講座」（以下「アドバイザー養成講座」という）はその為の重要な手段となっている。

これからの少子・高齢社会にこそ高齢者が地域において重要な存在であり、その果たすべき役割は益々大きなものとなっていく。こうした状況の中にあつて、アドバイザー養成講座の認定を受けた団体（以下「シニアネット団体」という）は、地域に根差した活動を展開し、地域の活性化に貢献してきている。

かかるシニアネット団体の活動こそ、「高齢者自立型・参加型情報化社会」を実現する牽引力となると認識しており、シニアネットを全国くまなく普及・拡大を図ると共に更なる活性化を図ることが極めて重要であり、急務であると考えている。

そこで今年度は、東北（仙台）と北海道（札幌）地区において、シニアネット団体のみならずその地域の出来るだけ多くの地域で活躍している団体に御参加頂いて「シニア情報生活アドバイザー活動研究会」を開催した。

2. 事業の実施内容

「シニア情報生活アドバイザー活動研究会」事業として、平成22年10月4日に「シニアネットフォーラム2010 in 東北」、平成22年10月22日に「シニアネットフォーラム2010 in 北海道」を実施した。その地区のシニア情報生活アドバイザー及びシニアの諸団体が一堂に会しシニアネットの社会的意義や具体的な活動研究等熱い議論と深い交流を行う中、シニアの自立と社会参加を促し、地域振興につなげるべくシニアネットの普及・拡大を図った。いずれも定員を大きく上回る参加者を得、盛況裡に終えることが出来た。

基調講演・パネルディスカッション・シニアネットの活動事例といった、示唆に富んだ講演や熱心な議論、刺激的な活動成果展等により今後の展開に極めて有意義なものとする事が出来た。なお、実施にあたっては下記のような手

順にて行った。

- 1)公募によりシニア情報生活アドバイザー活動研究会の実施者を募集する。
- 2)協会の担当者が書類審査実施後、技術顧問を中心とした各グループ長の合議により、事業者を選定する。
- 3)当協会三と当該団体及びその地区のシニアネット、NPO、自治体、関連企業等と協力して事業を実施する。同研究会は地区大会として、その地区の関連団体と協力関係を構築することにより、効率的に研修等が実施できる。

■実施例(シニアネット・フォーラム2010 in 東北)

- ・日時:平成22年10月4日 10時30分～16時30分
- ・場所:仙台シルバーセンター交流ホール(宮城県仙台市)
- ・主催:財団法人ニューメディア開発協会
- ・共催:NPO法人仙台シニアネットクラブ
- ・後援:経済産業省、総務省東北総合通信局、宮城県、仙台市等
- ・テーマ:「シニアの生き甲斐と社会参加に向けて」
- ・基調講演 I :辻一郎氏(東北大学大学院教授)
「社会参加と生き甲斐作りーIT社会への期待」
- ・セッション1:事例報告
「各地におけるシニアネットの活動と今後に向けて」
NPO法人豊齡研ITサロン会津 長谷川友仁氏
NPO法人いわてシニアネット 千葉文夫氏
NPO法人 パソコン・ネット・みやぎ 渡部俊幸氏
- ・セッション2:事例報告
NPO法人 あきたパートナーシップ 千田節子氏
NPO法人 シニアのための市民ネットワーク仙台
緑川 斐雄氏、及川 寿恵子氏
- ・パネル討論
「シニア情報生活アドバイザーの活動」

3. 本事業実施による成果

期間中、定員を上回る多くの参加者を得、和やかな雰囲気の中にも熱のこもった議論が展開され、シニアネット活動等を通して、地域のために貢献したいとするシニアのライフスタイルや意識に変革をもたらすことができたものと思われ、所期の目的を達成することができた。本事業により、各地域ごとに地域に点在するシニア情報生活アドバイザーを有機的に結びつけ、各団体の相互交流、各自治体との取り組み等お互いに持つ共通な問題点を徹底的に討議し相互の連携・研鑽を深める事が出来た。特に東北地域においては新たに秋田、

岩手のシニア団体がシニア情報生活アドバイザー養成団体となった。

4. 本事業の成果の活用状況等

本事業は、当協会の事業の柱である資格制度「シニア情報生活アドバイザー養成事業」とともにメロウ・ソサエティ構想を推進する主要事業であり、「シニア情報生活アドバイザー養成事業」と密接な関係がある。

シニアネットには、その共通的なミッションとして「地域のシニア等への IT 講習」がある。IT 講習には然るべき講師が必要であり、そこにシニア情報生活アドバイザーを当てはめるという構図である。両者はまさに車の両輪の関係にある。IT 講習に熱心なシニアネットは講師養成にシニア情報生活アドバイザー資格取得を採用しているところがある。シニア情報生活アドバイザーの活動の場としてシニアネットは必要不可欠な場となっている。